

教員の動画視聴による研修の振り返りに対する 他者コメントの分類と意識調査の試み

An Attempt to Survey Teachers' Attitudes Toward Other People's Comments
on Training Reflections through Video Viewing

堀田雄大* 中野裕司* 合田美子*
Hotta Yudai* Nakano Hiroshi* Goda Yoshiko*

*熊本大学大学院

* Graduate school of Kumamoto University

〈あらまし〉 堀田ほか (2023) が開発した、教員の研修動画の視聴と視聴内容について学習者間でコメントし合う研修プログラムにおいて、投稿されたコメント内容の分類と、コメントをしたり閲覧したりする際の学習者の意識について調査した。結果、コメントの内容は「活用への意欲」「動画内容への共感」「感想」「追視聴の報告」「感謝」「コメントへの共感」「自己課題の発見」「質問」の8つに、意識していたことは、「共感する」「コメントへのハードル」「価値付け・労い」「経験とつなげる」の4つに分類でき、コメントに躊躇する学習者がいることや、コメント内容は、意欲向上や、他者への共感や感謝といった肯定的な内容が確認できた。
〈キーワード〉 教員研修, オンライン, 動画視聴

1. はじめに

堀田ほか (2023) では、教員が自主的に研修を進めていくためのオンラインを活用した研修として、研修動画の視聴と視聴内容について学習者間でコメントし合うプログラムを開発した (図1)。本研究は、開発したプログラムにおいて投稿されたコメントの内容や、コメントに対する学習者の意識について分析することを目的とした。

2. 研究の方法

2.1. 調査対象

堀田ほか (2023) が開発したプログラムに参加した N 県 A 市に所属する 11 名の小学校教諭を対象とした。

2.2. 調査期間

本プログラムは、2023年7月26日～8月

27日に実施した。

2.3. コメント投稿のシステムと調査方法

Google チャットを使用した。各自で自分が動画を視聴した後に振り返りを投稿できるスペースを作成した。研修期間中、他者が投稿した動画視聴に関する振り返りの内容について、閲覧して得た気付きや思ったこと、感じたことを投稿するように依頼した。研修終了後、オンライン会議システムを用いて、コメントをする際に意識したことについて半構造化インタビューを実施した。インタビューは1人につき20分程度行った。

2.4. 分析方法

コメントの分析は次の手順で行った。①チャット上に投稿された内容を、投稿日時・投稿者・投稿内容に分けて全て表に貼り付けた。②①で抜き出した内容について、動画視聴の

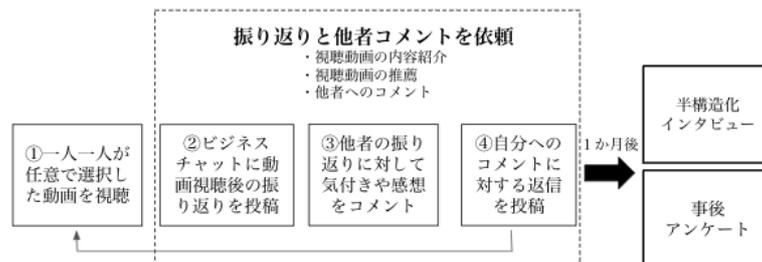


図1 研修プログラムの概要

振り返りに対するコメントの総数、1投稿あたりの平均文字数を表にまとめた。③②でまとめたうちの投稿内容について、1つの内容が1つの単位に含まれるように区切り、共通する内容で分類した。④分類した内容ごとに分類名を付けた。分類名は、第一著者が命名した後、第二著者が確認し、一致しない項目は協議の上決定した。⑤区切った内容が、分類ごとにいくつあるかを数え、表にまとめた。

半構造化インタビューの分析は次の手順で行った。①協力者に許可を得てインタビュー内容を記録し、全て文字文字化した。②①について、1つの内容が1つの単位に含まれるように区切った。③区切った単位の内容に対して、共通する内容で分類した。④分類した内容ごとに分類名を付けた。分類名は、第一著者が命名した後、第二著者が確認し、一致

表1 コメントの回数と平均文字数

協力者	回数	平均文字数
A	3	129.4
B	3	68.3
C	3	71.0
D	1	37.0
E	0	0
F	0	0
G	0	0
H	3	137.7
I	0	0
J	3	186.3
K	2	138
	20	70.3

表2 コメントの投稿内容の分類

回答の内容	回数
活用への意欲	11
動画内容への共感	10
感想	8
追視聴の報告	7
感謝	6
コメントへの共感	4
自己課題の発見	4
質問	3

表3 コメント投稿時に意識していたこと

回答の内容	回数
共感する	9
コメントへのハードル	9
価値付け・労い	4
経験とつなげる	2

しない項目については協議の上決定した。④区切った内容が、分類ごとにいくつあるかを数え、表にまとめた。

3. 結果と考察

3.1. コメントの投稿数と平均文字数

コメントの投稿数は20件、全体での平均文字数は70文字だった。最大で3件の投稿があり、投稿なしは4名だった。

3.2. 投稿内容の分類

コメントの内容は、8つに分類できた。動画の内容を業務に活用したいといった【活用への意欲】に関する内容が11件あった。動画の内容が自分の実践や課題とつながるといった【動画内容への共感】に関する内容が10件あった。動画の内容に対する【感想】が8件あった。「私もその動画見ました」といった、【追視聴の報告】に関する内容が7件あった。「素敵な動画の共有ありがとう」といった、【感謝】に関する内容が6件あった。【コメントへの共感】に関する内容が4件、コメントを通じて【自己課題の発見】をした内容が4件、コメントへの【質問】が3件あった。

3.3. 投稿時の意識

コメント時に意識していたことは4つに分類できた。他者に同意したり、同じ気持ちを表明したりする【共感する】。親しい人がチャット上にいないため、コメントすることを躊躇したといった【コメントへのハードル】。コメント投稿への【価値付け・労い】。自己の【経験とつなげる】が確認された。

これらの結果を踏まえると、コメントを躊躇してしまう学習者が、コメントしやすくなるような関係づくりにつながる手立ての必要性が考えられる。意欲向上、共感や感謝といった肯定的な内容がみられたことから、コメントを相互に前向きに受け止めている内容を広げていくことで、さらにコメントを行うことのよさを共有していける可能性がある。

4. 今後の課題

今後は、他者へのコメントが、動画視聴を行う学習において学習者間でどのように影響していたのかを検討していく。

参考文献

堀田雄大, 中野裕司, 合田美子(2023)教員の自己調整学習方略を高めるための研修動画の視聴と相互コメントを行う研修プログラムの検討. 日本教育工学会 2023年 秋季全国大会, 16-OL-008